

# 乾式貯蔵の安全性評価

## 県原子力専門委員 関電との質疑で

県の原子力行政に助言する県原子力安全専門委員会が27日開かれ、関西電力が県内の3原発に「乾式貯蔵施設」を設置するための事前了解願いを提出していることについて、専門家と関電との間で質疑が交わされた。委員会として総意をまとめたわけではないが、委員からは施設の安全性を評価する考えが複数示された。

杉本達治知事は設置の是非を判断するにあたり、同委員会での議論も参考にすることを考えを示している。関電側は、乾式貯蔵施設において使用済み核燃料を保管するキャスクという金属製容器の機能や構造などを説明。委員からは「地震が起きたときにどのような動き方をするのか」「限られた場所にある程度ホリウムのある施設を作る。事故対応の動線に影響はないか」などと質問が出た。

福井大名誉教授の総合文保委員長は「施設の安全性への考え方は合理性があるのではないか」という意見が出た。施設の具体的な安全性については規制委員

### おおい町議会 長期保管懸念

#### 関電側から明確な回答なし

使用済み核燃料を原発敷地内に一時保管する「乾式貯蔵施設」の事前了解願いを関西電力が奥や立地3町（おおい町、美浜町、高浜町）に提出したことについて、おおい町議会が27日、関電による説明会があった。核燃料を県外搬出する取り組みが進まない中で、

る計画だ。関電は設置の理由について、2030年ごろに県外で操業する予定の中間貯蔵施設への「円滑な搬出のため」と強調した。委員からは計画を懸念する質問や意見が複数出た。

今川直樹町議は「結局、構内での保管が長く続くのではないかと。関電さんとしても中間貯蔵になってほしいとの思いがあるのでは」と指摘した。

これに対し、関電担当者は「中間貯蔵施設については、具体的に言うことができない。物理的には中間貯蔵と大きくは変わらないが、あくまで円滑な県外搬出のための施設」と返答した。

高本和良町議は、地元紙のコラムを引用する形で「ごみ処分場や一時集積所ができるまで、自宅に専用の保管箱を作るので、期限は分らないが置いてください。家庭ごみでこんな」と言われたら大抵の人は怒る」とし、「私もそういう状況だと願う」と語った。

(佐藤博敏)



関西電力の「事前了解願い」について質疑した県原子力安全専門委員会。27日、奥や立地3町（おおい町、美浜町、高浜町）に提出した。核燃料を県外搬出する取り組みが進まない中で、